

【解説】

林さんは、自分の名前を正しく覚えてもらおうと思って、井上さんの発音を何度も直しました。しかし、これでは井上さんに、林さんは失礼な人と誤解されてしまいます。せっかく林さんがいいと思ってしたことですが、かえって失礼になってしまったのです。外国人にとって日本人の名前が難しいのと同様、日本人にとって外国人の名前は難しく、覚えにくいものです。名刺交換のときや、自己紹介のときは、はっきりと自分の名前を言って、あなたの名前を印象づけるようにしましょう。

練習1. 自分の名前を相手の人に印象づける言い方を練習してみましょう。

<例1> 林 学 誠

→ リンは林という漢字で、シュエは学問の学、ツェンは誠実の誠という字です。

<例2> 李 淑 旺

→ イーは、「すもも」という意味で、木の下に子供の子と書きます。スツは、淑女の淑、ゴクは日本語にはありませんが、石へんに玉と書きます。

<例3> ニババーニ タンチャイサック

→ タンチャイサックは長いので、ニババーニと呼んでください。

練習2. 日本人の中には、他人から、その場ではっきり間違いを指摘されたり、訂正されたりすることを失礼だと思ったり人もいます。ですから、あなたが日本語を間違えた場合でも、はっきり指摘するのは失礼だと考えて、訂正しない人もいます。では、あなたが訂正してほしいと思っている場合は、どう言えばいいでしょうか。

<例1> 間違いを指摘してもらうために、会話の初めに一言お願いしておく。

→ 「まだ日本語が十分ではないので、もし間違えたら、おっしゃってください」
 <例2> 日本語では失礼になるようなことを言った場合、指摘してほしいという意思を伝えておく。

→ 「もし、何か失礼なことを申しましたら、どうぞおっしゃってください」

【まとめ】

ここでは、第1課で勉強した名刺交換について、もう一度まとめてみましょう。

練習1. 名刺交換のポイント—その1—
下線部分に正しい言葉を書きなさい。

- ①名刺を出すときは、名前を_____の方に向けて出します。
 ②名刺は_____に扱うようにします。
 ③名刺を受け取るときは、_____で受け取ります。
 ④名刺はその人の「_____」と同じです。

練習2. 名刺交換のポイント—その2—

正しいものには○、違うものには×を()に記入しなさい。

- ①() 名刺は自分のものでも相手のものでも丁寧に扱います。
 ②() 相手の名刺は両手でいただきます。
 ③() 名刺はいただいたらすぐポケットにしまいます。
 ④() いただいた名刺を、すぐにしまっってはけません。
 ⑤() いただいた名刺は、必ずその場で目を通します。
 ⑥() 相手の名前が読みにくい場合、読み方を聞くのは、大変失礼です。
 ⑦() 読み方がわからないときは、尋ねたほうがいいです。
 ⑧() 名刺を手渡すとき、もたもたしていると相手の人に不愉快な感じを与えます。

練習3. 名刺交換の大切なことは

下線部分に適切な言葉を書きなさい。

- ①初めて会うことを_____といます。
 ②名刺を入れておくものを_____といます。
 ③相手の言葉をくり返して言うことを_____といます。

〜に しまう

必ず

その場で

目を通す

不愉快な感じ